

デザインコンセプト

みんなでつくる 100 年の広場
みどりのもとに集い、まちを育む



約 100 年前、国立駅と共に大学町が生まれました。三角屋根の駅舎、水禽舎のある円形公園が特徴的な駅前広場は人々が集まる場所でした。これらは時と共に車中心の空間に変わっていきました。現在、旧国立駅舎の再築を機に、国立駅前を人中心の空間とする機運が高まっています。そこで、駅前広場から大学通りにつながるみどりと人の空間をつくり、そこに集まる動植物も含め、それぞれが居心地よく過ごせる駅前広場をコンセプトとしました。そして、そこに人々が関わり、様々な活動を通して考え学ぶ場へと成長する国立駅南口駅前広場を目指します。



大正 15 (1926) 年当時の国立大学町の写真
写真：郷土文化館所蔵

設計方針

全体方針

- 1 みどりや人の空間を増やし、憩いやにぎわいが生まれ、人や生き物がゆっくりと過ごせる広場とします。
- 2 大学町として成長してきたまちの歴史や文化を継承します。
- 3 人の動線、緑、生き物のネットワークやにぎわいが周囲につながり、まちの回遊性を高める広場とします。
- 4 時間帯や季節による多様な使われ方、イベントや災害時利用などにも柔軟に対応できる広場とします。
- 5 ソーシャルインクルージョンの考え方にに基づき、様々な人に使いやすいユニバーサルデザインの広場とします。

設計方針を構成する「5 つのデザイン」

景観
のデザイン

- 1 大学通りから旧国立駅舎への眺望を尊重します。
- 2 大学通り、富士見通り、旭通りの 3 つの軸を活かします。
- 3 整備当初から残る円形公園の形状などを継承したデザインとします。

広場
のデザイン

- 1 沿道と一体となって、憩いやにぎわいが生まれるデザインとします。
- 2 広場全体で憩いやにぎわいが感じられるよう、各空間同士が見通せるデザインとします。
- 3 夜間でも安全・安心な場所となるよう、適切に照明を配置します。

共創
のデザイン

- 1 地域の人々や来訪者がそれぞれに合った様々な形で広場に関わることができ、愛着を持てるデザインとします。
- 2 人々が使いやすい広場とするため、多様な人々と一緒に広場のデザインを考えます。
- 3 寄せられた意見やワークショップの成果を踏まえたデザインとします。
- 4 社会実験などで使い方を試しながら、様々な活動を通して考え・学ぶ場へと成長する広場を目指します。

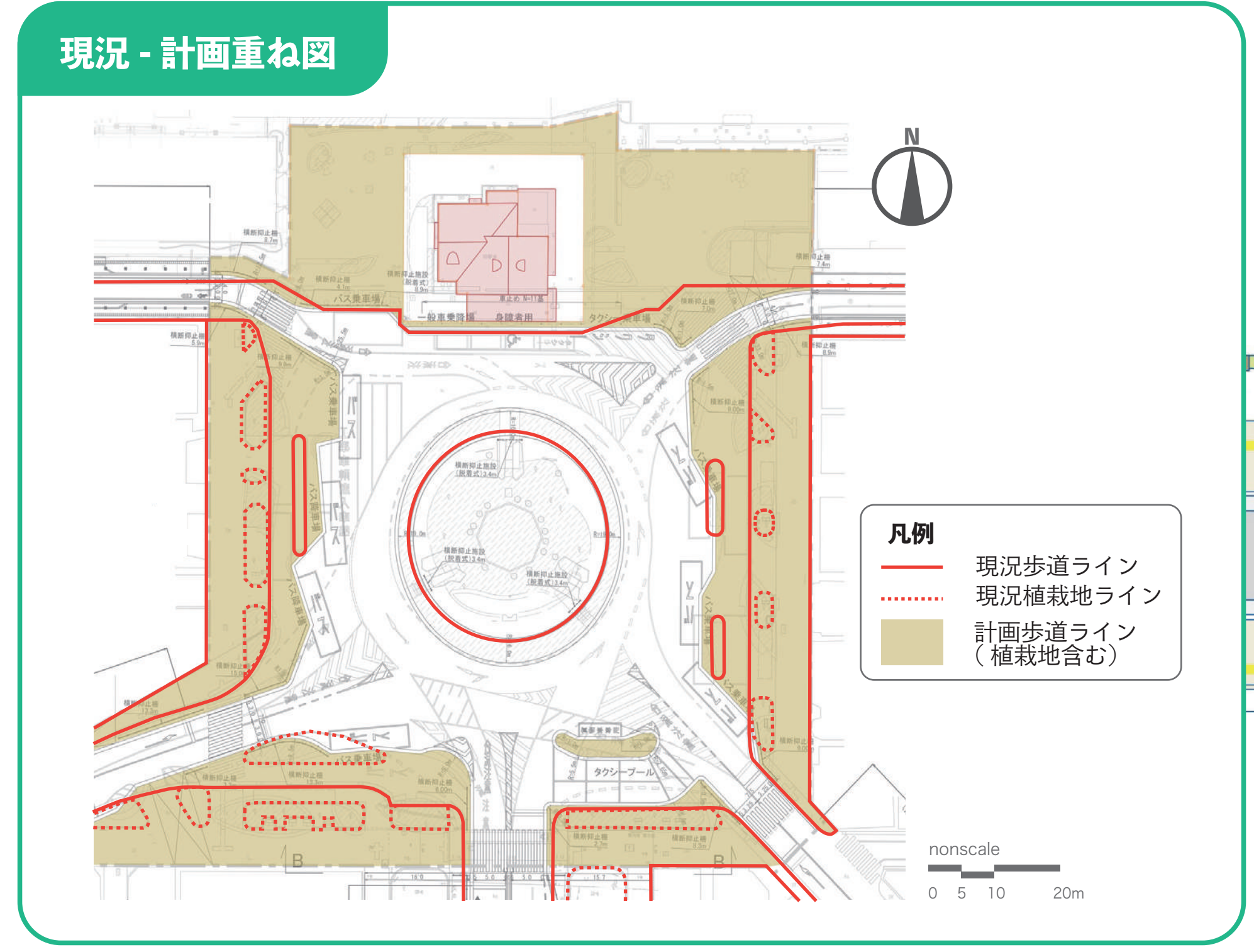
交通
のデザイン

- 1 交通機能を最適化し、コンパクトに配置します。
- 2 歩行者・自転車・車両利用者も使いやすく、安全・安心なデザインとします。
- 3 耐久性が高く、長く使用できる素材を用います。
- 4 一時的に車両通行路を切り替えることにより、大イベント時などに広い歩行空間を確保できるデザインとします。

環境
のデザイン

- 1 武蔵野の気候・風土にあった植栽を増やし、大学通りのみどりにつながるデザインとします。
- 2 人々が木陰や四季の緑を楽しめるよう、駅前広場全体で効果的に緑を配置します。
- 3 既存のサクラをできる限り長生きさせつつ、将来的なサクラの更新も考慮したデザインとします。
- 4 雨水浸透を促す機能をもつグリーンインフラを活用し、災害対策と環境改善の両立を目指します。
- 5 維持管理やコストに配慮しつつ、素材のリサイクルや CO2 削減など SDGs に資するデザインとします。

全体平面プラン



交通

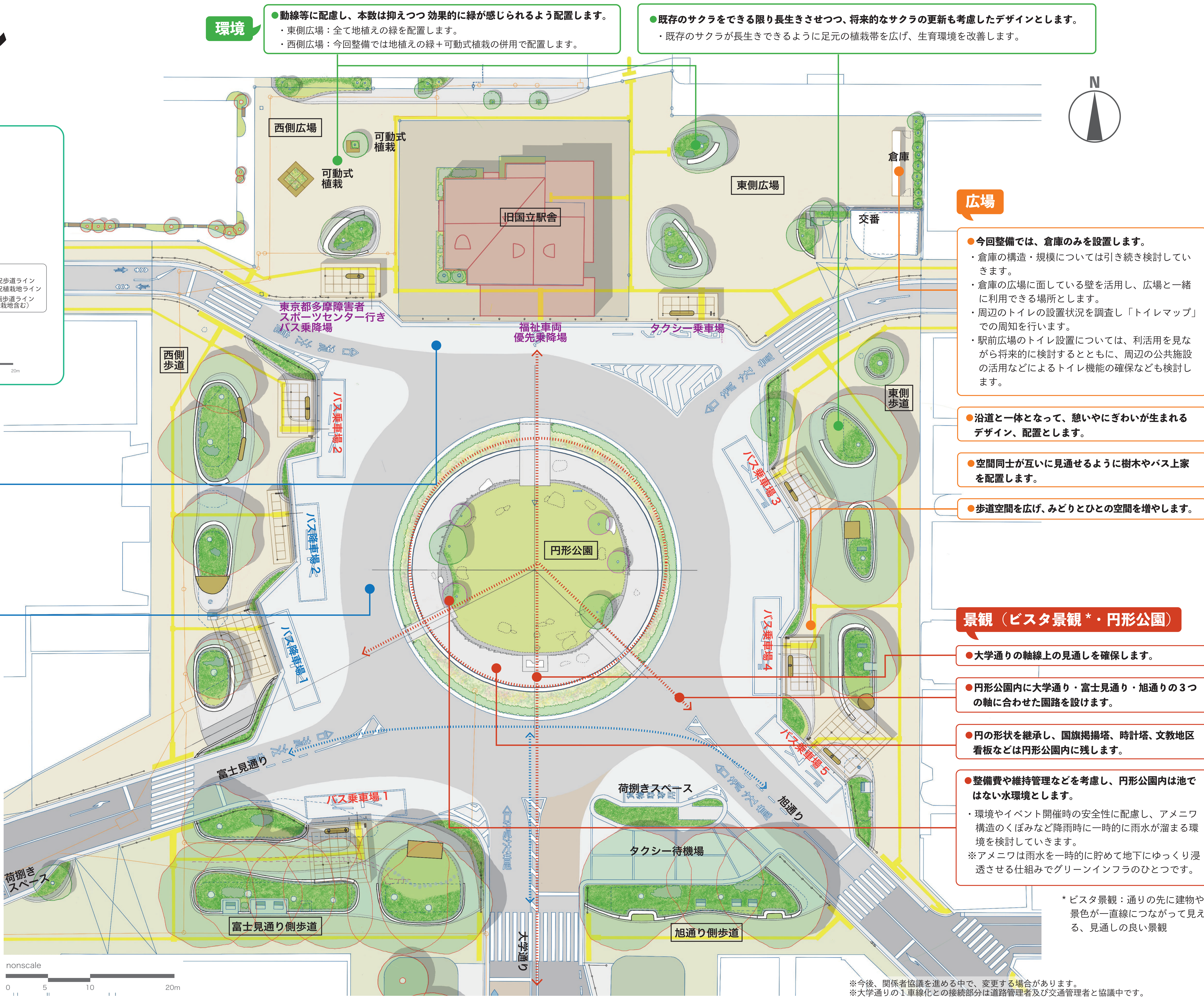
- 旧国立駅舎前の中央から西側の区間は送り迎えて停車可能な場所を設けています。
※福祉車両が優先的に使えるようにおもいやりを持ってご利用ください。
※停車扱いとなる必要最小限の乗降であれば一般車両についても運用できます。こちらについて、わかりやすい周知をしていきます。

- 警視庁との協議を重ねた結果、ロータリーを 1 車線とし、市外から来られた方でも分かりやすく安全な車両動線とします。
・現況は複数車線で運用されており、複数車両による輻輳が生じていますが、輻輳箇所を減らし、安全な動線とします。
・環状道路を「主動線」、環状接続道路を「従動線」とし、環状道路への接続をわかりやすくします。
・車線は 1 車線となりますが、車道幅員は幅の広い幅員を確保します。
※令和 6 年 11 月に実施した交通社会実験によって大きな問題は生じないことを確認しております。

- 全てのバス停で歩道から直接乗降できるようにします。(島式バス乗り場の廃止)

- バス、タクシー乗車場を無駄なくコンパクトに配置します。

- 自転車走行は横断歩道手前までとし、その先は押し歩きとします。



※今後、関係者協議を進める中で、変更する場合があります。
※大学通りの 1 車線化との接続部分は道路管理者及び交通管理者と協議中です。